

2019年度 事業報告

<総務本部>

【総務委員会】

1. 正会員及びオープン会員の募集及び登録業務を行いました。
2. 正会員及びオープン会員の更新案内を個人へ発送しました。
3. 正会員及びオープン会員の会員証を個人へ発送しました。
4. 2019年度正会員登録状況を、支部長や各チーム代表者がインターネットで確認できるシステムの運用を行いました。
5. 10月に次年度正会員用登録用紙を各チーム代表者に発送しました。
6. 総会、理事会及び定例会議等の会議を開催し、報告書を作成しました。
7. 会員に対する保険等の対応を行いました。
8. 議案等を作成し、各会議へ提案しました。
9. 事務局の就業規則を適正に管理し、事務局業務の円滑化及び効率化を図りました。
10. 個人情報の適正な管理を行いました。
11. 独立行政法人日本スポーツ振興助成センターにスポーツ振興くじ、スポーツ振興基金、開催地の関係機関等に助成申請を行いました。
12. 大会の開催に関し、スポーツ庁及び海上保安庁等に後援申請を行いました。
13. 他業種との連携を図り、連盟の活性化を検討しました。
14. 社会貢献活動として、NSA サーファーズビーチクリーン ACT 2019（全国一斉ビーチクリーン）を実施し、事前に ACT フラッグ、ポールを配布しました。
15. UMI 協議会のボートショー(2019)に参加し、サーフィンの楽しさを一般の方々に情報発信しました。（実施済）
16. 各種助成団体の調査及び加盟を図りました。
17. NSA ネットショップを設け、NSA 関連商品を販売しました。
18. 公益財団法人日本スポーツ協会への加盟を目指しました。
19. 会員データシステムの改修を検討しました。
20. 公認会計士による監査の強化を実施しました。
21. 事務局を JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 新会館内へ移転しました。

【普及開発委員会】

1. 各地域における情報伝達、意見交換の場として、支部長意見交換会等を実施しました。
2. 全日本サーフィン選手権大会の開催時に全国支部長会議を開催しました。
3. 各地域主催の公認サーフィンスクールの助成を受け付けました。（年間3ヶ所）
4. 公的サーフィンスクール(市、教育委員会など)にテキスト、保険提供などを支援しました。
5. サーフィン専門誌及び NSA オフィシャルサイトなどを活用し、公認指導員の公認スクール開催のバックアップ及びスクールの拡充を図りました。
6. 都道府県体育協会への加盟にあたっての助言、指導、助成を行いました。
7. 職業別サーフィン大会への助成を行いました。

【企画委員会】

1. 13th ALL JAPAN SURFING GRAND CHAMPION GAMES 2019 を国際大会の派遣年齢基準に合わせて実施しました。
2. 主催大会の構成や効率化を検討しました。
3. ポイントランキング制度を改定しました。
4. 主催サーフィンスクール及びプールスクールを開催しました。(悪天候等による中止あり)
5. 公認大会の改定及び管理を行いました。
6. 公認大会のエントリー及びその他詳細についてNSA オフィシャルサイトに掲載しました。
7. 公認大会支援事業として、エリアフラッグ、タイムフラッグ、ゼッケン等を貸与しました。
8. サーフアニメの制作を監修しました。

【コンプライアンス委員会】

1. コンプライアンスの作成見直しを実施しました。
2. 会員及び役員へコンプライアンスの徹底推進を実施しました。
3. サーフィン界のコンプライアンスの啓発活動を実施しました。
4. YearBook にコンプライアンスについて掲載し、周知を図りました。

<事業本部>

【事業委員会】

1. オフィシャルパートナー・各主催大会・プールスクール事業の協賛募集活動を行いました。
2. NSA サーファーズビーチクリーン ACT 2019 (全国一斉ビーチクリーン)を実施しました。
日時 2019年9月1日(日)又は8日(日)
場所 全国の海岸 120ヶ所以上
3. 主催大会・派遣大会の結果をオフィシャルパートナーに報告しました。
4. 派遣大会ではナショナルチームにユニフォーム、Tシャツ、ポロシャツ、帽子等を支給しました。
5. 大会役員、関係者、公認ジャッジにスタッフアウターを販売しました。
7. 第54回全日本サーフィン選手権大会にて、ライブ中継を広報委員会と合同で行いました。

【広報委員会】

1. 2020年度会員募集と主催大会スケジュール発表の「サーフィンレビュー」を圧着形式で、2019年10月に全会員へ郵送しました。(訂正→正)
2. 「YEARBOOK」を2019年4月上旬に全会員と公認ジャッジ、公認指導員、協力店、支部長へ郵送しました。
3. サーフィン専門誌の「NSA ニュース」欄等を利用し、NSAの活動を一般に広く知らせる記事を掲載しました。
4. 全日本・全日本級別選手権大会・ジュニアマスターズオープン・ALL JAPAN SURFING GRAND CHAMPION GAMES等の大会プログラムと大会ポスター(地域等限定)を作成し配布しました。
5. NSA オフィシャルサイトとSNS(Facebook等)の連動を図り、最新情報を配信しました。
6. NSA オフィシャルサイトに主催大会結果、写真等をアップしました。

7. 協力店等に「ルール&マナーブック」を無料配布しました。
8. 「ルール&マナーブック」を主催大会、公認大会に無料配布しました。
9. 協力店に、ビーチクリーン等のポスターを2回無料配布しました。
10. 春のインタースタイルにブースを出展しました。
11. 第54回全日本サーフィン選手権大会にてライブ中継を実施しました。JOC第27回ジュニアオープンサーフィン選手権大会&第16回マスターズオープンサーフィン選手権大会の中継は協賛が無かった為中止しました。
12. 放送局アナウンサー及びメディアの方にサーフィン競技セミナーを実施しました。
3月21日(木)春分の日に行いました。
13. サーフィン競技解説を行うシミュレーションを3月30日~31日に放送局アナウンサー向けに強化合宿内で実施致しました。
14. 千葉県オリパラ推進局とNSAの合同企画、学生を対象にサーフィン競技普及事業として「学校訪問プロジェクト」を行いました。
15. ISA世界選手権宮崎大会に波乗りジャパン広報担当として大会期間中の写真及び記事を、ホームページ、メディアに発信を致しました。
16. 環境省リサイクル推進室「プラスチック・スマートキャンペーン」海洋プラスチックごみを無くす取り組みをNSAでも協力し合同企画を実施致しました。

【大会開催委員会】

1. 第37回全日本級別サーフィン選手権大会(2019)を開催しました。
開催場所：千葉県鴨川市東条海岸(マルキポイント)
開催日：2019年4月19日(金)~21日(日)
2. 第27回ジュニアオープンサーフィン選手権大会(2019)
第16回マスターズオープンサーフィン選手権大会(2019)を開催しました。
開催場所：静岡県磐田市豊浜海岸
開催日：2019年6月14日(金)~16日(日)→2019年6月22日(土)追加試合
3. 第54回全日本サーフィン選手権大会(2019)を開催しました。
開催場所：高知県東洋町生見海岸
開催日：2019年8月19日(月)~24日(土) 予備日25日(日)→予備日使用
※トライアル及び開会式は前日18日(日)
4. 13th ALL JAPAN SURFING GRAND CHAMPION GAMES 2019を開催しました。
開催場所：茨城県日立市河原子北浜海岸
開催日：2019年10月26日(土)~27日(日)→2019年11月16日(土)~17日(日)変更

<教育本部>

【ジャッジ委員会】

1. 公認大会にジャッジ派遣の要請があった場合、派遣を行いました。
2. 主催大会の専任ジャッジを選出しました。
3. 国際大会に準じて改定した競技ルールを施行しました。
4. 主催大会において、プライオリティールールを施行しました。
5. 主催大会においてジャッジシステム導入を行いました。

6. 公認ジャッジ講習会に教育委員会より講師の依頼があった場合、派遣を行ないました。
7. サーフィン検定(2019年3月伊豆多々戸)にて、1・2級の見解の統一を目的としたジャッジ委員でのサーフィン検定を実施しました。
8. サーフィン検定にも、マスタージャッジの派遣の要請があった場合、派遣を行ない全国での見解の統一を目的としました。
9. 広報委員会と連携を取り、プライオリティールールの映像を作成し、プライオリティージャッジの育成に取り組みました。

【教育委員会】

1. サーフィン検定の開催スケジュールについて管理、調整を行いました。
 - ①検定基準の統一を目的に必要な応じてマスタージャッジの派遣手配を行いました。
 - ②検定を通して開催地域のA級ジャッジからマスタージャッジを採用するなど、地域のジャッジ活動を促進しました。
2. 春季公認ジャッジ講習会（試験なし）を開催しました
 - ・2019年2月10日（日）東京会場 受講者数 43名 ※1名欠席
 - ・2019年2月17日（日）大阪会場 受講者数 30名 ※1名欠席
3. 秋季公認ジャッジ講習会、ジャッジ資格試験を実施しました。
 - 日程 … 2019年11月24日（日）
 - 会場 … 仙台 / 東京 / 石川 / 大阪 / 宮崎
 - 詳細は当連盟オフィシャルサイトで発表しました。
4. 公認ジャッジの認定・昇格を審査しました。
5. 支部主催で公認したジャッジ講習会へ講師の派遣を行いました。
※ 3. 4. 5. の事業はジャッジ委員会と連携を取りながら行いました。

【安全対策委員会】

1. サーフィンに関する安全普及活動を実施しました。
2. 主催大会、公認大会等の安全管理を徹底しました。
3. サーフィン環境の保全、改善による安全対策を計画し実施しました。
4. 海上保安庁、(一財)日本海洋レジャー安全・振興協会・(一社)ウォーターリスクマネジメント協会の事業と連携して公認指導員制度の普及・促進を図る為に、講習会を実施し、全国に指導員を配置しました。
5. 公認指導員講習会を実施しました。
 - 日程 : 2019年3月10日（日）
 - 会場 : 横浜（一財）日本海洋レジャー安全・振興協会大会議室 受験者数 46名
6. 主催大会会場に於いて救急救命訓練・講習会の実施を検討しました。
7. 主催4大会に於いて、主催支部もしくは主催地域より要請があった場合は、津波防災対策訓練を実施しました。
8. 公認指導員講習会について、支部または地域からの開催要請に対応しました。

<強化本部>

【国際委員会】

1. 派遣大会地域の国及び現地情報を把握し、告知しました。
2. 本連盟が関連する国際大会・事業等の企画運営をしました。
3. 世界レベルのジャッジ・コーチ・選手の育成をしました。
4. ISA との連携を深め、情報交換を実施しました。
5. 国際大会の事前交渉等の円滑化を図りました。
6. ジャッジシステムの管理をしました。
7. ISA コーチング講習会を実施しました。
 - ・ ISA コーチングレベル1 講習会(第1回)を2日間にわたり実施しました。(実施済み)
日程 : 2019年1月26日~27日 東京6名
 - ・ ISA コーチングセミナーを開催しました。(資格保持者)(実施済み)
日程 : 2019年1月25日 東京13名
8. ISA ジャッジ講習会を実施しました。
 - ・ 日程 : 2019年6月22日(土) 東京8名
 - ・ 日程 : 2019年6月23日(日) 東京6名

【強化委員会】

1. 強化合宿を行い世界レベルの選手の育成・強化を進めました。
2. 世界レベルのコーチの育成をしました。
3. 強化指定選手制度を設け、ISA 大会にて優秀な成績を収めた強化指定選手(プロアマ問わず)に報奨金を支払いました。
4. 強化指定選手を対象に強化合宿を行いました。
5. 強化指定選手には、国際大会の選手参加費のサポート、主催大会の参加費免除、強化合宿費のサポートなどを実施しました。
6. 国際大会への派遣選手の選考及び派遣役員を選出しました。
7. JOC との連携により、国際大会で勝利できる選手育成を実施しました。
8. 将来計画に基づきジュニア選手の育成を実施しました。
9. 強化指定選手を対象とした強化合宿を実施するとともに、管理をしました。
10. 世界選手権大会の選考試合(ジャパンオープンオブサーフィン)を開催しました。
11. 以下の国際大会等へ選手派遣しました。
 - ・ 2019 ISA WORLD LONGBOARD SURFING CHAMPIONSHIP 5月26日~6月2日 フランス
 - ・ 2019 ISA WORLD SURFING GAMES 9月7日~15日 日本 宮崎県
 - ・ 2019 ISA World Junior Surfing Championship 10月26日~11月3日 ハンティントンビーチ
 - ・ 2019 ISA WORLD SUP AND PADDLEBOARD CHAMPIONSHIP 11月24日~12月1日 エルサルバドル
 - ・ アジアサーフィン選手権大会 11月19日~23日 中華人民共和国 広東省 汕頭市
 - ・ 2019 ISA WORLD ADAPTIVE SURFING CHAMPIONSHIP 2020年3月予定

【アンチドーピング医科学委員会】

1. アンチドーピング活動を徹底するとともに周知活動を実施しました。
2. ドーピング検査を導入しました。
3. サーフィンに関する医学的な調査研究を実施しました。
4. 強化選手等を対象に専門的な知識の理解を深める活動を実施しました。

【アスリート委員会】

1. アスリートからの意見を集約し、事業や強化活動へ反映させました。
2. アスリートの環境整備を提案しました。
3. アスリートの課題を集約し、解決に向けた提案をしました。

【オリンピック国際推進委員会】

1. オリンピック大会でのサーフィン競技の継続的な実施へ向けて働きかけをしていきました。
2. 国際機関と連携しサーフィンの普及発展に努めていきました。
3. アジア連合の設立などサーフィンの地域発展を進めました。
4. 公益財団法人日本オリンピック委員会の事業連携や会議へ出席しました。
5. アンチドーピング医科学委員会と連携し、WADA 及び JADA の定めるアンチドーピングを進めました。
6. 公益財団法人日本スポーツ仲裁機構の仲裁制度を活用しました。
7. スポーツ関係機関との連携を図りました。